

## 5 疾病の口腔ケア チーム医療による全身疾患対応型口腔ケアのすすめ

公益社団法人日本歯科衛生士会 会長  
金澤紀子



B5判/220頁  
定価 4,200円  
(本体 4,000円 + 税 5%)  
医歯薬出版  
(2013年3月発行)

いま、医科・歯科連携のチーム医療において、疾病や病態、治療や療養のステージに対応した口腔管理・口腔ケアをどのように進めるか、さまざまな議論が行われるなか、タイムリーな企画として本書が発行されました。

歯科衛生士の教育研修は、これまで歯科患者への対応を中心に行われてきましたが、近年、口腔ケア、NST、摂食・嚥下リハビリテーション、感染制御、糖尿病、緩和ケアなどのチーム医療において、医科と歯科の専門性を活かした連携を行うことで、患者中心の質の高い医療の提供が可能となることから、“医科・歯科連携”のチーム医療が重要視されています。そのようななか、医科患者に対する歯科医師、歯科衛生士の積極的なかわりが求められています。

厚生労働省は、2013年の医療計画において、広範かつ継続的な治療が必要な疾患として、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4疾病に精神疾患を加えた「5疾病」について、安心・安全で質の高い医療の提供とともに、生活の質の向上を実現するための医療提供体制の構築を求めています。また、地域医療の

重点項目となる救急医療、災害時の医療、へき地の医療、周産期医療および小児医療（小児救急を含む）の5事業および在宅医療については、地域の医療関係者などの協力のもと、医療機関の機能を分担し、連携することにより、“切れ目のない”医療を提供する必要があります。このような状況から、多種多様なメディカルスタッフが、各々の高い専門性を前提として目的と情報を共有し、業務を分担、連携、補完しあい、患者さんの状況に的確に対応するための「チーム医療」を実践しています。そのなかで、がん治療などにおける術後合併症や誤嚥性肺炎の予防、ひいてはQOLの向上につながる口腔機能管理・専門的口腔衛生処置などの“口腔ケア”の必要性が増大しています。

本書は、全身疾患対応型として5疾病の口腔ケアを取り上げ、5疾病の全体像および口腔ケアについての総論と基本テクニックを解説し、その疾患の特徴に応じた口腔ケアが提案されています。そして、各疾患別の口腔ケア実践法については、実際の医療現場から寄せられた50の質問に対して、Q & A形式でわかりやすく解説しています。

全身疾患に対する知識や経験が不足していることから、チーム医療への参画を躊躇している歯科衛生士にとってはたいへん頼りになる待望の書です。また、すでにチーム医療で実践している歯科衛生士にとっても、知識や実践法の確認、改善のための必携の書となるでしょう。病院・診療所の連携が推進されるなか、診療所の歯科衛生士にもぜひともお勧めしたい一冊です。